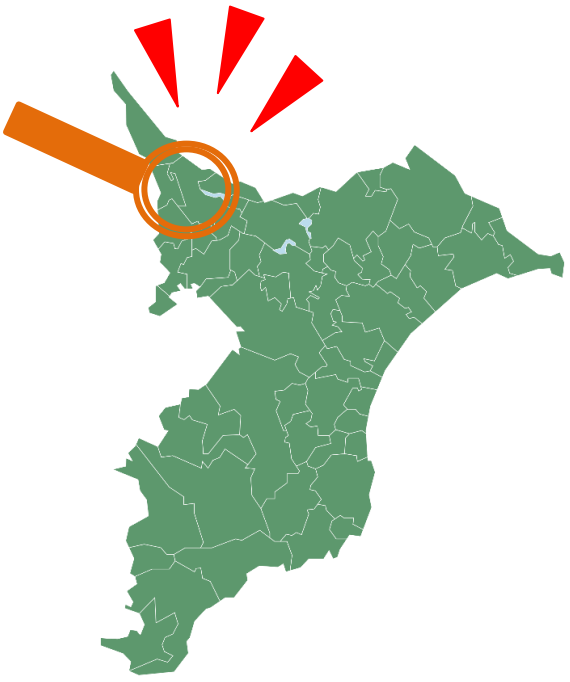
２０２６・９

柏の景気情報

令和8（２０２６）年9月の調査結果



柏　商　工　会　議　所

The kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

（本件担当）　柏商工会議所 中小企業相談所
〒277-0011　千葉県柏市東上町７－１８
ＴＥＬ　：　０４－７１６２－３３０５
ＦＡＸ　：　０４－７１６２－３３２３
ＵＲＬ　：　http://www.kashiwa-cci.or.jp
Ｅ－ｍａｉｌ　：　info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（令和８年９月の調査結果のポイント）

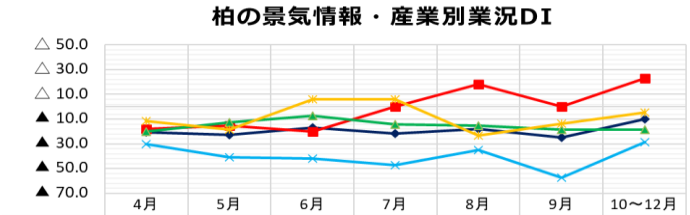
★調査結果のまとめ

回答期間：令和８年９月17日～令和８年10月２日　調査対象：柏市内198事業所及び組合にヒアリング、回答数72

長雨や豪雨による客足鈍化に物価高が追い打ち、各界で厳しい状況

９月の全産業合計の業況ＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２５．０（前月水準▲１８．０）となりマイナス幅が７．０ポイント拡大した。

長雨や豪雨災害の影響で客足が大幅に鈍化する中、急激な物価高や人手不足が各業界に重くのしかかっている。価格転嫁の遅れや消費者心理の冷え込みも重なり、秋の商戦に向け厳しい経営状況が続いている。



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10～12月
全産業	▲ 20.6	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 9.7
建設	▲ 18.1	▲ 15.3	▲ 20.0	±0.0	△ 18.1	±0.0	△ 23.0
製造	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 18.7	▲ 18.7
卸・小売	▲ 30.0	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 57.1	▲ 28.5
サービス	▲ 11.7	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	▲ 13.6	▲ 4.5

★業種別の動向

前月と比べたＤＩ値の動き　↗ 改善　➡ 横ばい　↘ 悪化

建設業

先月から引き続き、大工不足が深刻化。仕事の依頼があっても、人手不足でお待ちいただく事が多い（一般土木建築工事業）

千葉県内の豪雨災害を含めて、国内での自然災害、国際的な紛争問題により、受注環境の変化が生じはじめている。また、気候変動に伴う災害の増加などの環境変化にも留意して、経営計画や受注活動を長期的な視点で再考する必要がある。（地質調査・地質コンサルタント）

製造業

物価上昇が著しい中、価格転嫁が難しいため、粗利を削りながらの何とか運営している中小企業、とりわけ食品業界を取り巻く環境は厳しい。８月のお盆休みに、贈答品などの消費支出が堅調に推移したが、後半は買い控えとなり、９月に入ってからも継続している。物価上昇に対して消費者の意識は未だ慣れておらず、値上がりに対するマイナス心理が商品の売れ行きにも大きく影響したと思う。（食料品製造業）

外的要因による物価高に大きく左右され、価格転嫁等遅れる事なく対応していかなければいけない状況。取り扱っている物量は微増程度だが、慢性的な人手不足となっており、現状維持が精一杯といった状況。（金属素形材製品製造業）

卸・小売業

昨年は猛暑で晴天も続き季節も狂っていたので、秋物の売込みもできなかった。本年は、「長い夏」「季節の二季化」「快適な夏」をテーマに取組んできたが、８月13日の線状降水帯発生に伴う水害から、雨の多い天候が続いている影響で順調だった夏物の消化が一気に止まり、秋物の展開を前倒しで拡大している。９月は「客数」が大幅に落ち込んで買い控えが進行している。（大型小売店）

取引先の減少による売上の低下があったが、８月から新規開拓・新商品の製造（外注）などで売り上げは徐々に回復している。（その他の飲食料品小売業）

サービス業

８月の豪雨による生活不安があるのか、９月に入り長雨による客足鈍化が顕著。また一次生産物の現場からも、生育不良や廃棄量の激増による減収を理由とした今後の仕入れ価格値上げなど原油高の物価上昇だけにとどまらず、食を取り巻く環境の先行き不安を覚える。今はこれからの年末に向けた準備期間と捉え明るい年末を期待ししっかり進めたい。（専門料理店）

売上は伸びているが、専門職の人手不足状態が課題。AI化で生産性向上の取り組みを急いでいる。安定した労働力の確保、業務効率化が課題。（商品・非破壊検査業）

★全国の商工会議所早期景気観測調査（CCI－LOBO）との比較

全産業合計では、「柏の景気」が▲２５．０に対し、「ＣＣＩ－ＬＯＢＯ」が▲２０．７で、柏のほうが全国平均と比較して４．３ポイント下回っている。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業である。

柏商工会議所
The Kashiwa Chamber Of Commerce and Industry

今月の柏の景気天気図

柏の景気情報と全国CCI - LOBOとの比較

景気天気図	 特に好調	 好調	 まあまあ	 不振	 極めて不振
	DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI

業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 ±0.0	 ▲ 18.7	 ▲ 57.1	 ▲ 13.6
CCI―LOBO	 ▲ 20.7	 ▲ 17.4	 ▲ 14.8	 ▲ 27.7	 ▲ 20.6

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 18.0	 ▲ 7.6	 ±0.0	 ▲ 61.9	 4.5
CCI―LOBO	 ▲ 5.7	 ▲ 17.4	 8.8	 ▲ 14.5	 ▲ 3.3

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 25.0	 ±0.0	 ▲ 12.5	 ▲ 57.1	 ▲ 18.1
CCI―LOBO	 ▲ 20.5	 ▲ 22.4	 ▲ 15.0	 ▲ 25.8	 ▲ 22.2

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 69.4	 ▲ 69.2	 ▲ 87.5	 ▲ 66.6	 ▲ 59.0
CCI―LOBO	▲ 69.0	▲ 73.8	▲ 73.3	▲ 69.6	▲ 62.7

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	22.2	46.1	18.7	4.7	27.2
CCI―LOBO	21.0	38.3	14.4	15.9	22.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	▲ 23.6	±0.0	▲ 25.0	▲ 38.0	▲ 22.7
CCI―LOBO	▲ 12.6	▲ 6.9	▲ 10.0	▲ 17.5	▲ 15.3

ＣＣＩ－ＬＯＢＯ

商工会議所早期景気観測（9月速報）

調査期間：2026年9月10日～16日

調査対象：全国の326商工会議所が2,455企業にヒアリング調査を実施

全国の業況

業況ＤＩは、相次ぐ値上げに天候不順が響きほぼ横ばい。先行きは、行楽需要が追い風となり、明るい兆し

全産業合計の業況ＤＩは、▲20.7（前月比▲0.5ポイント）

製造業では、ＡＩ・半導体関連の引き合い増加や一部での価格転嫁の進展等により、改善した。一方で、建設業では各種コストの高止まりや人手不足の影響などを受け、悪化した。小売・サービス業では、物価高に伴う節約志向の高まりから消費意欲に弱さが見られたことに加え、天候不順による客数の減少も重なり、悪化した。

値上げの長期化に伴い消費マインドの弱さが続く中、飲食店からは、来年4月以降の飲食料品の消費税減税に伴う来店客数の減少を懸念する声も聞かれている。

先行き見通しＤＩは、▲17.3（今月比＋3.4ポイント）

先行きについては、金利上昇や長期化する円安・物価高に伴うコスト増加が重荷となっている。十分な価格転嫁が進まないことも懸念材料であり、先行き不透明感が拭えない。

一方で、高水準での賃上げに伴う実質賃金の増加に加え、気温の低下に伴う秋の行楽シーズンの到来などが、消費マインドの底上げに寄与することが期待される。

【建設業】

「資材価格や人件費の高騰に伴い工事費が上昇しており、計画の延期・中止等による施工件数の減少や、工事規模の縮小が生じている」（一般工事業）

「担い手不足が当地の建設業界に大きな影響を与えている。多くの地域企業では採用や人材育成に投資してきた経験が乏しいため、行政と連携し、企業および求職者双方の意識変革を促す取り組みが必要と感じる」（リフォーム工事業）

【製造業】

「半導体やデータセンター向け案件が急増。競争によりメモリ価格の高騰やプリント基板の入手困難が、製造の妨げになっている」（電気機械器具製造業）

「中東情勢や円安による原材料価格の上昇、人件費・設備維持費の上昇に伴い価格改定を実施。公正取引委員会の指導や取引適正化法を背景に、得意先との交渉はスムーズに進んだ。価格転嫁は実現したものの、値上げに伴う今後の売上低下や受注への影響を懸念している」（鉄鋼業）

【卸売業】

「価格転嫁は進展したが、販売量の減少により採算は横ばい。来年4月の食品の消費税減税に伴うシステム改修の負担増加が懸念される」（飲食料品卸売業）

「前年度に発生したＷｉｎｄｏｗｓ11移行に伴うＰＣ更新需要の反動に加え、物価高の影響により民間の設備投資意欲は減退傾向にある。投資の優先順位としては建物修繕などが先行しており、ＯＡ機器関連の設備投資については先送りが生じている」（機械器具卸売業）

【小売業】

「物価上昇で節約意識が高まり、食品の質を重視しない消費者が増加している。また、天候不順の影響で農作物価格が不安定である」（野菜・果実小売業）

「値上げの影響により売上は前年実績を上回っているが、消費動向を示す客数や買い上げ点数は減少している。加えて、ゲリラ豪雨をはじめとする悪天候が客足の減少に拍車をかけている」（総合スーパー）

【サービス業】

「医療・半導体関連や災害支援物資など一部で荷動きは見られるものの、深刻な運転手不足に加え、燃料価格の高騰に伴い収益は悪化している」（運送業）

「熊本地震の影響による観光客の激減に加え、夜間の宴会自粛ムードの長期化が重荷となっている。九州ふっこう応援割などの観光支援策による会食需要の回復に期待したい」（飲食店）

全国・産業別業況ＤＩの推移

「見通し」は当月水準に比較した向こう３ヶ月の先行き見通しＤＩ

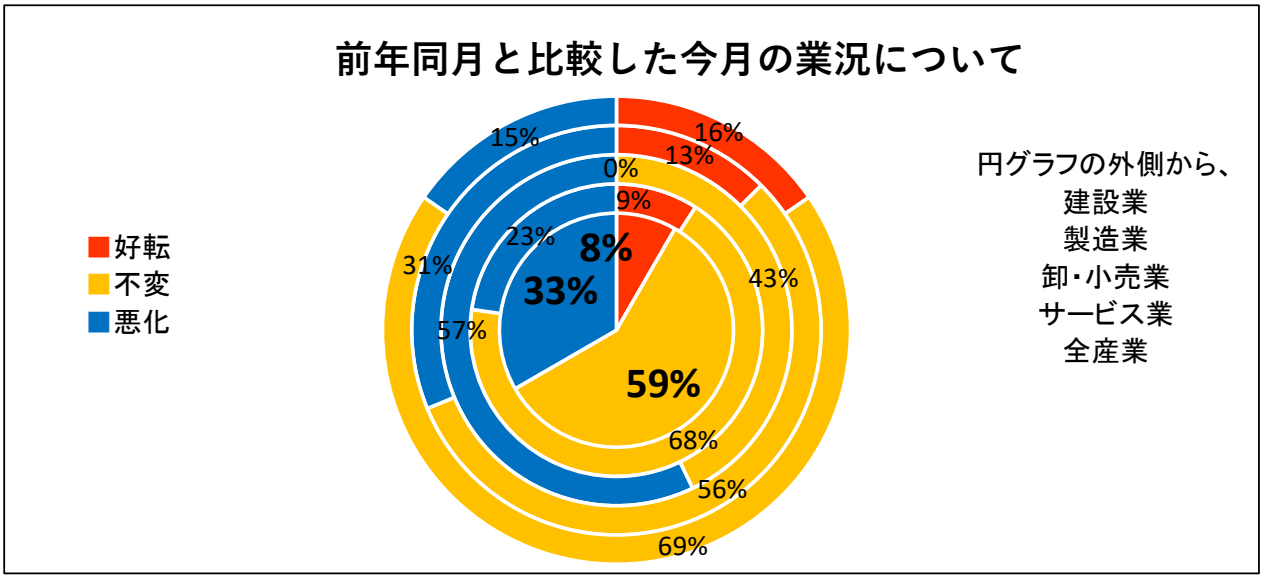
	全産業	建　設	製　造	卸　売	小　売	ｻｰﾋﾞｽ
4月	▲ 21.9	▲ 17.7	▲ 23.0	▲ 23.1	▲ 23.5	▲ 8.6
5月	▲ 24.3	▲ 24.8	▲ 22.6	▲ 30.8	▲ 30.7	▲ 18.0
6月	▲ 22.2	▲ 22.7	▲ 20.6	▲ 24.5	▲ 29.2	▲ 17.5
7月	▲ 21.2	▲ 18.2	▲ 18.0	▲ 24.0	▲ 28.6	▲ 19.7
8月	▲ 20.2	▲ 16.0	▲ 20.1	▲ 26.6	▲ 24.0	▲ 17.6
9月	▲ 20.7	▲ 17.4	▲ 14.8	▲ 26.7	▲ 27.7	▲ 20.6
見通し	▲ 17.3	▲ 15.3	▲ 15.4	▲ 22.6	▲ 22.7	▲ 14.3

令和８年（２０２６年）9月の動向

【業況について】

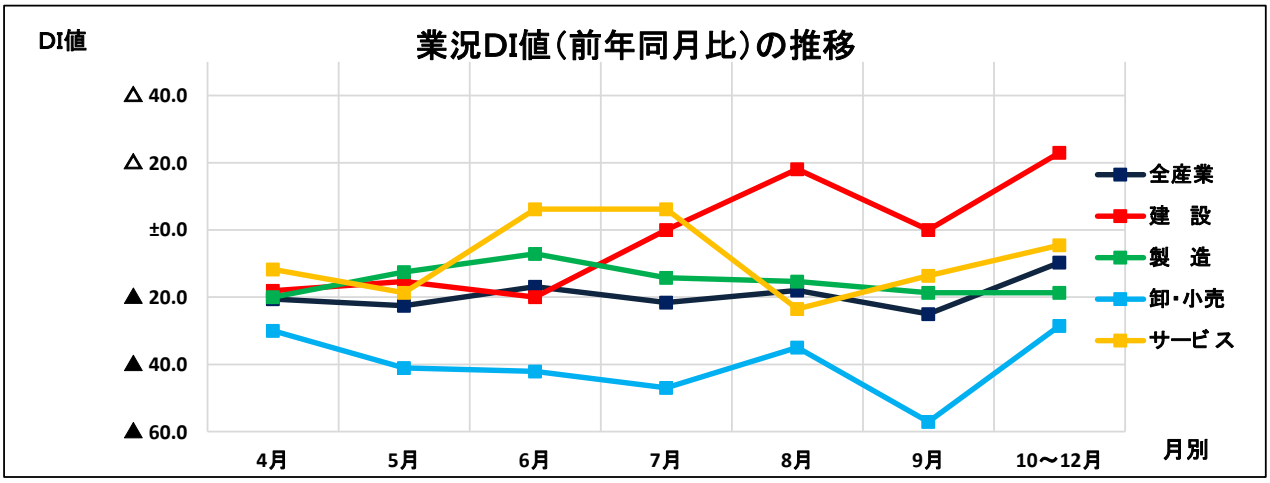
○ 9月の全産業合計のＤＩ値（前年同月比ベース、以下同じ）は、▲２５．０（前月水準▲１８．０）となり、マイナス幅が７．０ポイント拡大した。

○ 向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲９．７（前月水準▲１．６）となり、マイナス幅が８．１ポイント拡大した。



業況ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合ー「悪化」の回答割合

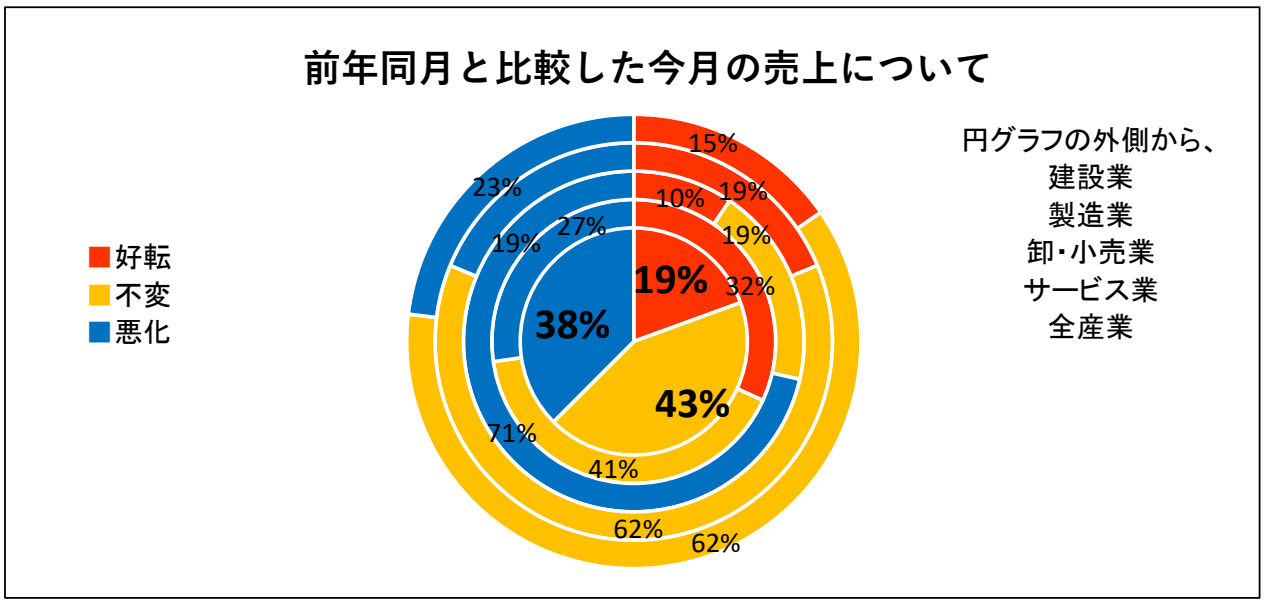
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	▲ 20.6	▲ 22.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 18.0	▲ 25.0	▲ 9.7 （ ▲ 1.6 ）
建　設	▲ 18.1	▲ 15.3	▲ 20.0	± 0.0	△ 18.1	± 0.0	△ 23.0 （ △ 45.4 ）
製　造	▲ 20.0	▲ 12.5	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	▲ 18.7	▲ 18.7 （ ▲ 7.6 ）
卸・小売	▲ 30.0	▲ 41.1	▲ 42.1	▲ 47.0	▲ 35.0	▲ 57.1	▲ 28.5 （ ▲ 25.0 ）
サービス	▲ 11.7	▲ 18.7	△ 6.2	△ 6.2	▲ 23.5	▲ 13.6	▲ 4.5 （ ± 0.0 ）



【売上について】

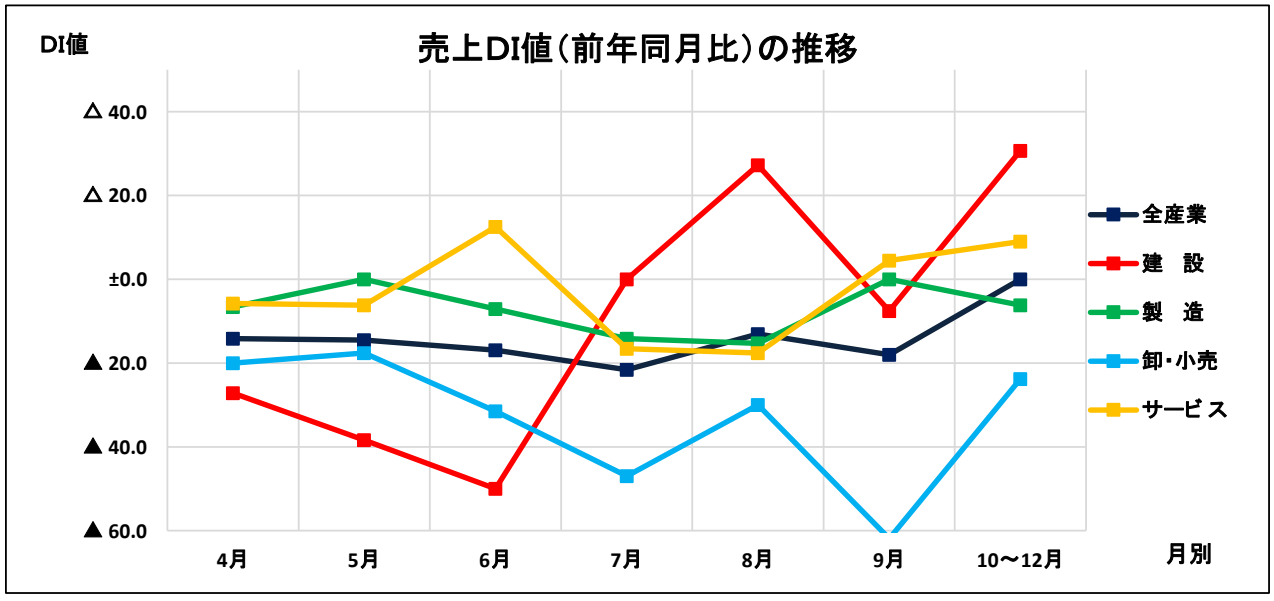
○ 9月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１８．０前月水準▲１３．１）となり、マイナス幅４．９ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、±０．０（前月水準△４．９）となり、プラス幅が４．９ポイント縮小した。☒



売上ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「増加」の回答割合ー「減少」の回答割合

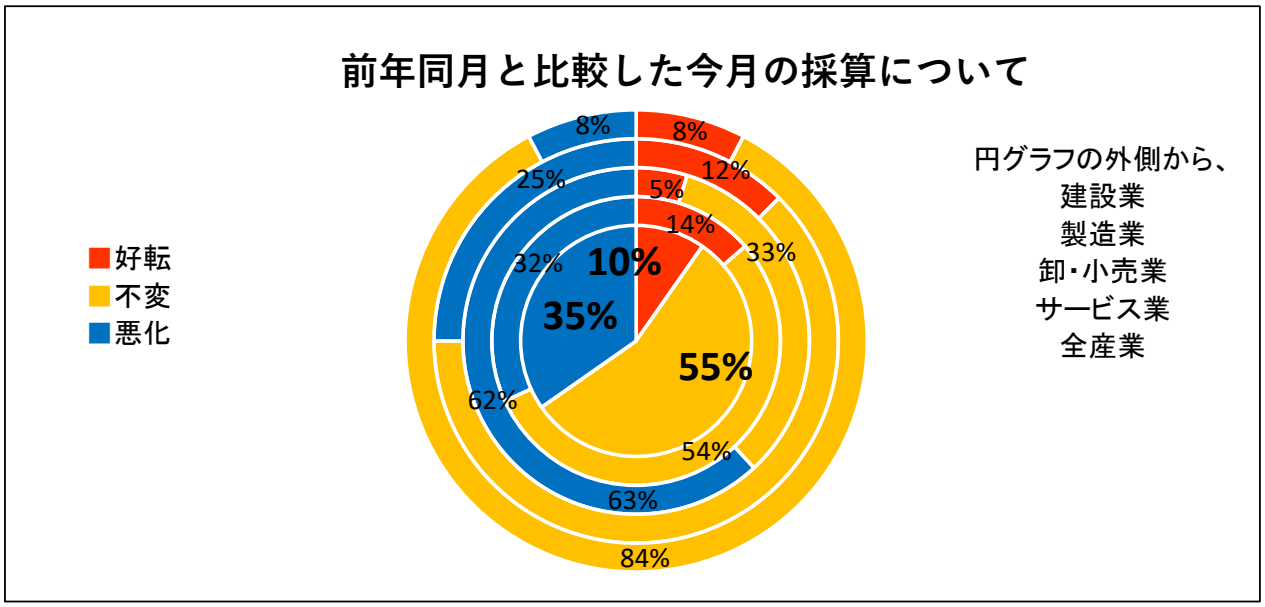
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	▲ 14.2	▲ 14.5	▲ 16.9	▲ 21.6	▲ 13.1	▲ 18.0	±0.0 （ △ 4.9 ）
建　設	▲ 27.2	▲ 38.4	▲ 50.0	±0.0	△ 27.2	▲ 7.6	△ 30.7 （ △ 27.2 ）
製　造	▲ 6.6	±0.0	▲ 7.1	▲ 14.2	▲ 15.3	±0.0	▲ 6.2 （ △ 7.6 ）
卸・小売	▲ 20.0	▲ 17.6	▲ 31.5	▲ 47.0	▲ 30.0	▲ 61.9	▲ 23.8 （ ▲ 5.0 ）
サービス	▲ 5.8	▲ 6.2	△ 12.5	▲ 16.6	▲ 17.6	△ 4.5	△ 9.0 （ ±0.0 ）



【採算について】

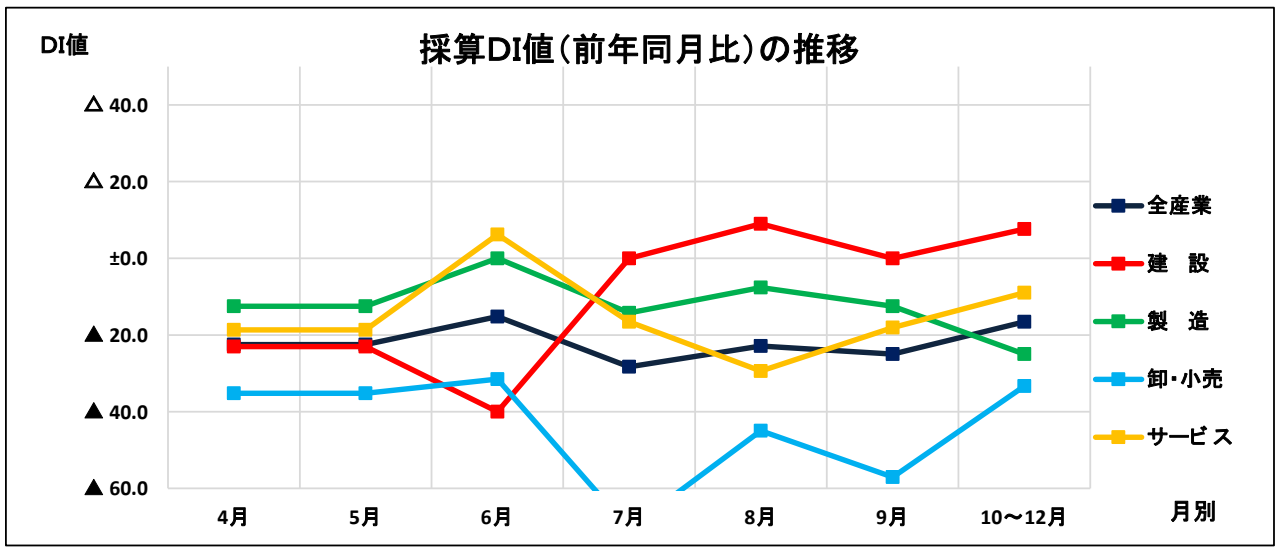
○ 9月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲１６．６（前月水準▲２２．９）となり、マイナス幅が６．３ポイント縮小した。

○ 向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１６．６（前月水準▲３．２）であり、マイナス幅が１３．４ポイント拡大した。



採算ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合ー「悪化」の回答割合

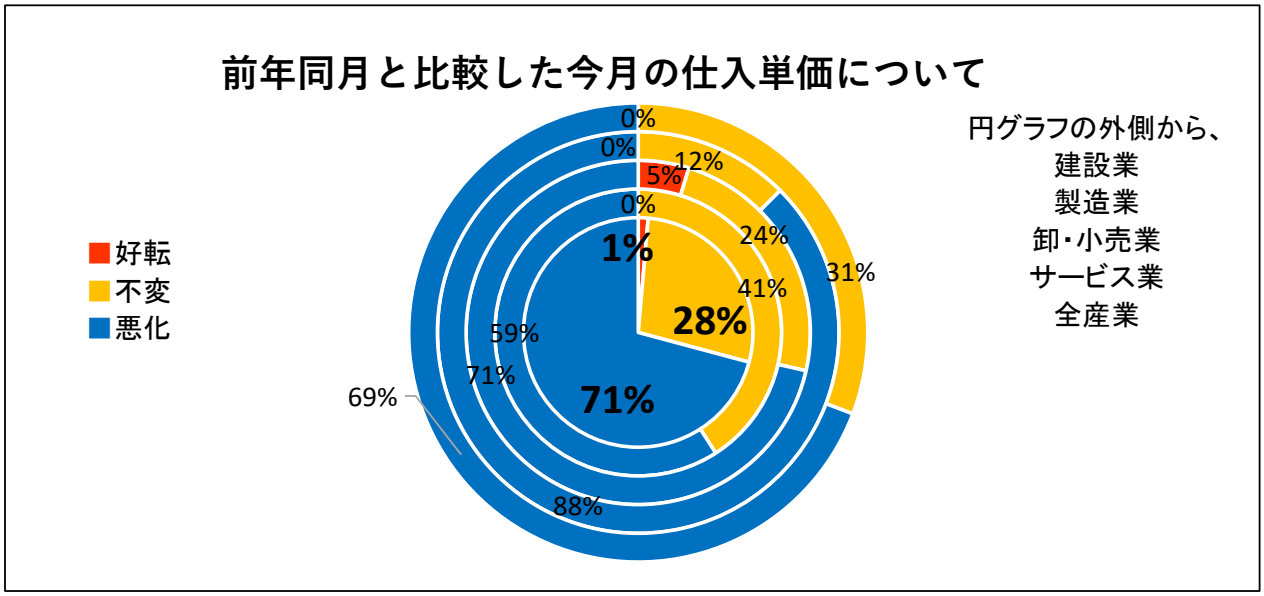
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	▲ 22.5	▲ 22.5	▲ 15.2	▲ 28.3	▲ 22.9	▲ 25.0	▲ 16.6 （ ▲ 3.2 ）
建　設	▲ 23.0	▲ 23.0	▲ 40.0	±0.0	△ 9.0	±0.0	△ 7.6 （ △ 45.4 ）
製　造	▲ 12.5	▲ 12.5	±0.0	▲ 14.2	▲ 7.6	▲ 12.5	▲ 25.0 （ ▲ 15.3 ）
卸・小売	▲ 35.2	▲ 35.2	▲ 31.5	▲ 70.5	▲ 45.0	▲ 57.1	▲ 33.3 （ ▲ 20.0 ）
サービス	▲ 18.7	▲ 18.7	△ 6.2	▲ 16.6	▲ 29.4	▲ 18.1	▲ 9.0 （ ▲ 5.8 ）



【仕入単価について】

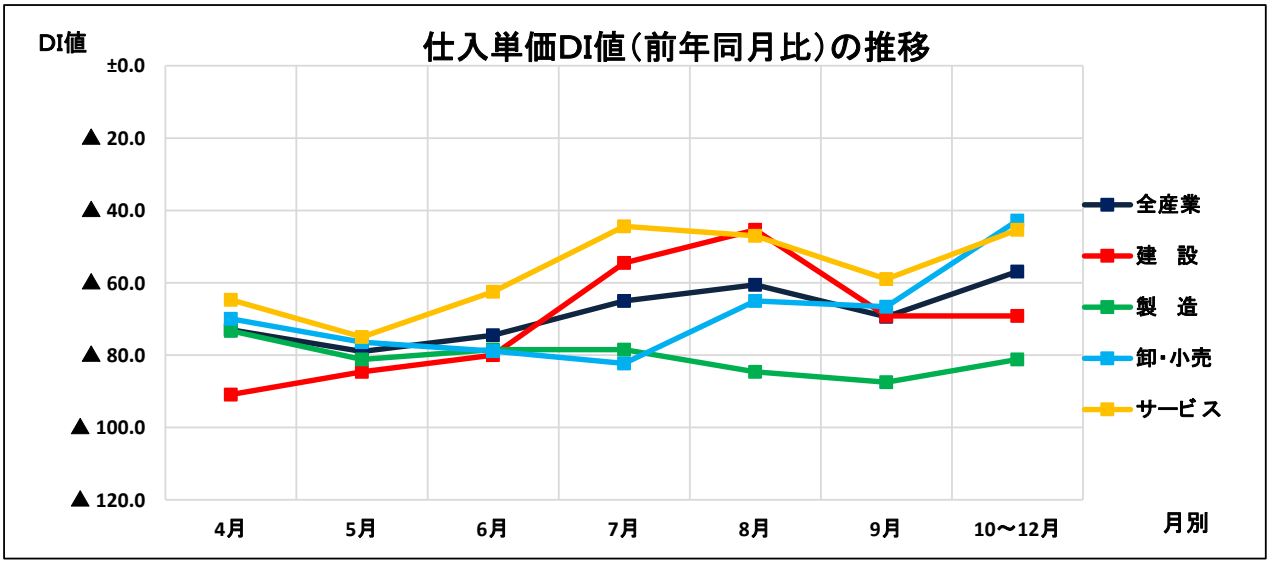
○9月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲６９．４（前月水準▲６０．６）となり、マイナス幅８．８ポイント縮小した。

○向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲５６．９（前月水準▲４９．１）となり、マイナス幅が７．８ポイント拡大した。



仕入単価ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「下落」の回答割合－「上昇」の回答割合

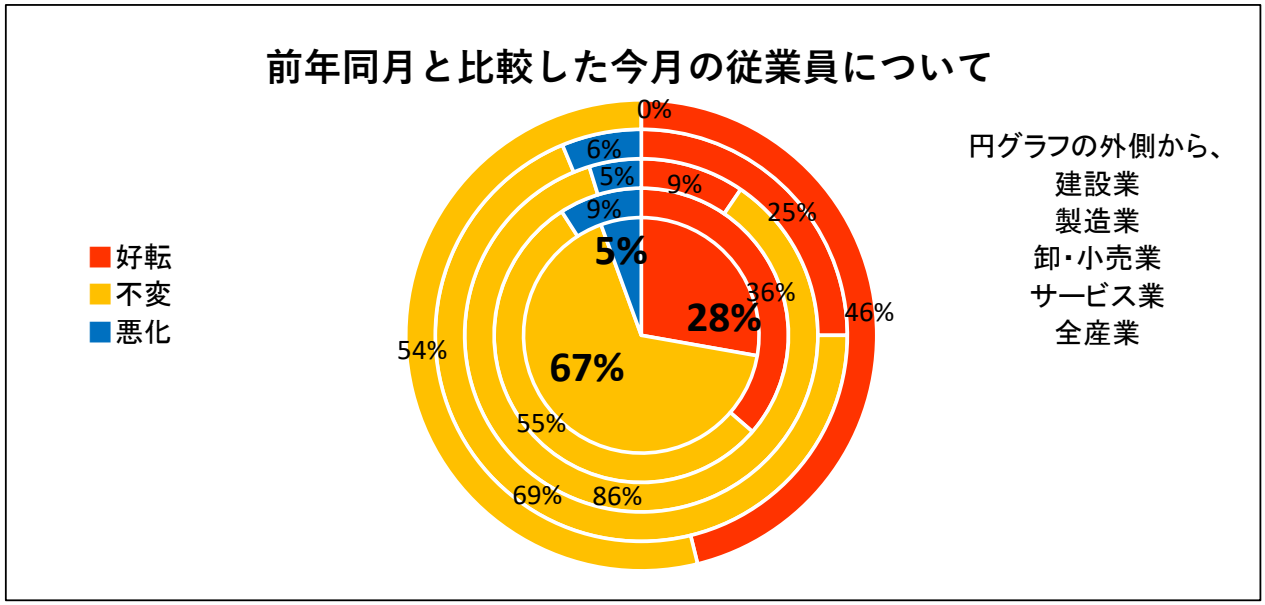
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	▲ 73.0	▲ 79.0	▲ 74.5	▲ 65.0	▲ 60.6	▲ 69.4	▲ 56.9 （ ▲ 49.1 ）
建　設	▲ 90.9	▲ 84.6	▲ 80.0	▲ 54.5	▲ 45.4	▲ 69.2	▲ 69.2 （ ▲ 27.2 ）
製　造	▲ 73.3	▲ 81.2	▲ 78.5	▲ 78.5	▲ 84.6	▲ 87.5	▲ 81.2 （ ▲ 76.9 ）
卸・小売	▲ 70.0	▲ 76.4	▲ 78.9	▲ 82.3	▲ 65.0	▲ 66.6	▲ 42.8 （ ▲ 50.0 ）
サービス	▲ 64.7	▲ 75.0	▲ 62.5	▲ 44.4	▲ 47.0	▲ 59.0	▲ 45.4 （ ▲ 41.1 ）



【従業員について】

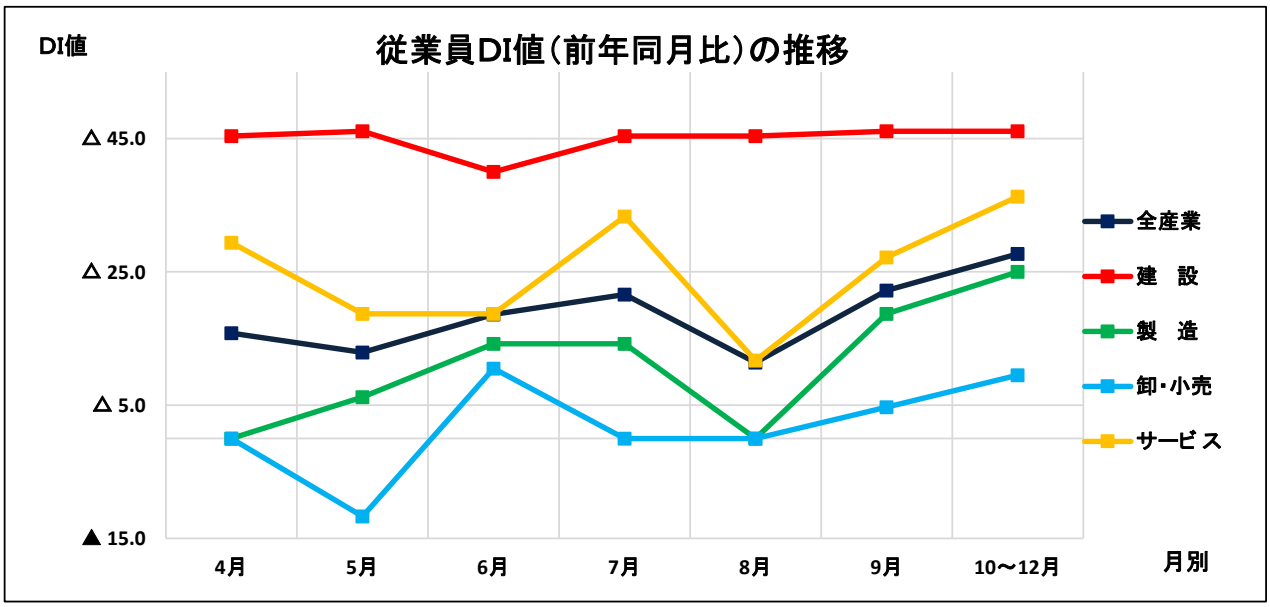
○ 9月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△２２．２（前月水準△１１．４）となり、プラス幅が１０．８ポイント拡大した。

○向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、△２７．７（前月水準△１４．７）となり、プラス幅１３．０ポイント拡大した。



従業員ＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「過剰」の回答割合ー「不足」の回答割合

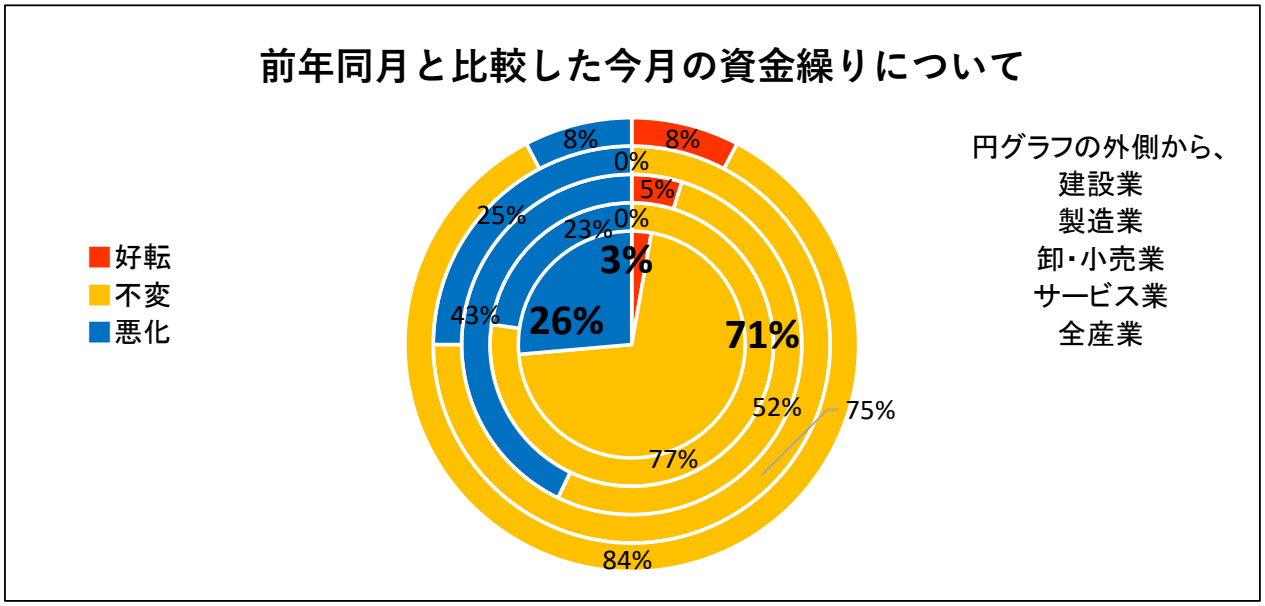
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	△ 15.8	△ 12.9	△ 18.6	△ 21.6	△ 11.4	△ 22.2	△ 27.7 （ △ 14.7 ）
建　設	△ 45.4	△ 46.1	△ 40.0	△ 45.4	△ 45.4	△ 46.1	△ 46.1 （ △ 45.4 ）
製　造	±0.0	△ 6.2	△ 14.2	△ 14.2	±0.0	△ 18.7	△ 25.0 （ △ 7.6 ）
卸・小売	±0.0	▲ 11.7	△ 10.5	±0.0	±0.0	△ 4.7	△ 9.5 （ △ 5.0 ）
サービス	△ 29.4	△ 18.7	△ 18.7	△ 33.3	△ 11.7	△ 27.2	△ 36.3 （ △ 11.7 ）



【資金繰りについて】

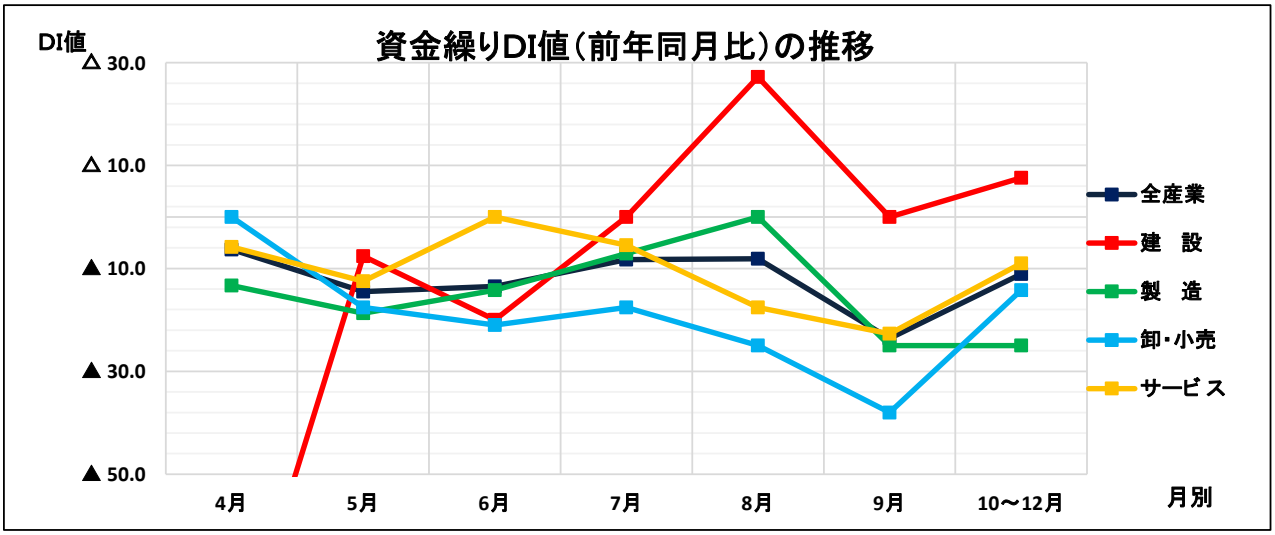
○ 9月の全産業合計のＤＩ値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲２３．６（前月水準▲８．１）となり、マイナス幅が１５．５ポイント拡大した。

○ 向こう３ヶ月（10月から12月）の先行き見通しについては、全産業では、▲１１．１（前月水準±０．０）となり、マイナス幅が１１．１ポイント拡大した。



資金繰りＤＩ値（前年同月比）の推移　※DI＝「好転」の回答割合－「悪化」の回答割合

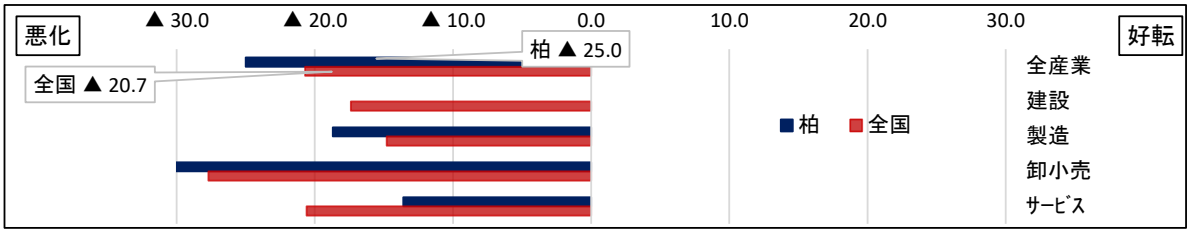
	令和8年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	先行き見通し 10～12月 （ 9～11月 ）
全産業	▲ 6.3	▲ 14.5	▲ 13.5	▲ 8.3	▲ 8.1	▲ 23.6	▲ 11.1 （ ±0.0 ）
建　設	▲ 90.0	▲ 7.6	▲ 20.0	±0.0	△ 27.2	±0.0	△ 7.6 （ △ 27.2 ）
製　造	▲ 13.3	▲ 18.7	▲ 14.2	▲ 7.1	±0.0	▲ 25.0	▲ 25.0 （ ±0.0 ）
卸・小売	±0.0	▲ 17.6	▲ 21.0	▲ 17.6	▲ 25.0	▲ 38.0	▲ 14.2 （ ▲ 10.0 ）
サービス	▲ 5.8	▲ 12.5	±0.0	▲ 5.5	▲ 17.6	▲ 22.7	▲ 9.0 （ ▲ 5.8 ）



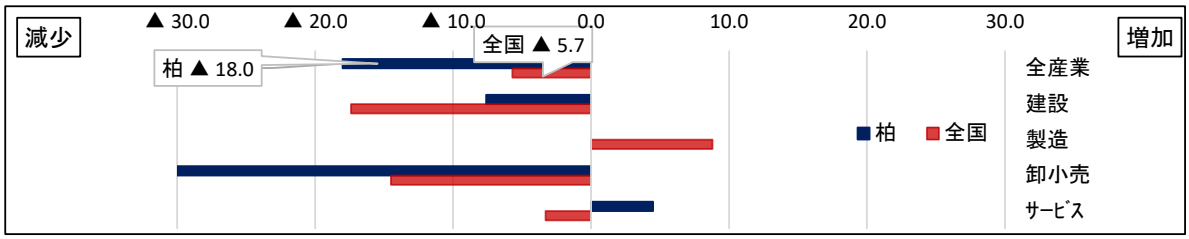
全国（ＣＣＩ－ＬＯＢＯ）との比較

【CCI－LOBOとは】
日本商工会議所が各地商工会議所のネットワークを活用し、地域や中小企業が「肌で感じる足元の 景況感」や「直面する経営課題」を全国ベースで毎月調査し、その結果を集計・公表するものです

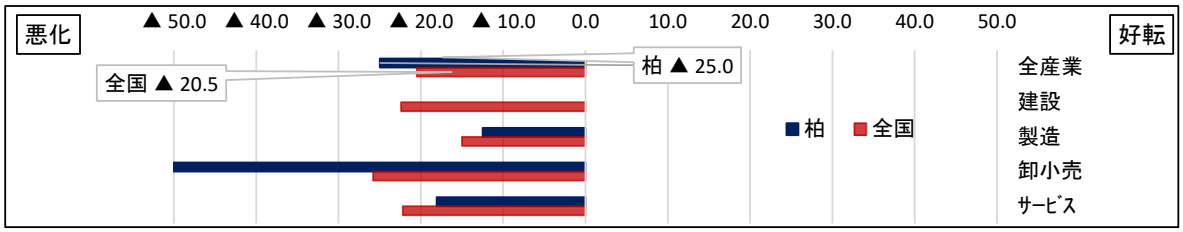
【業況ＤＩ】



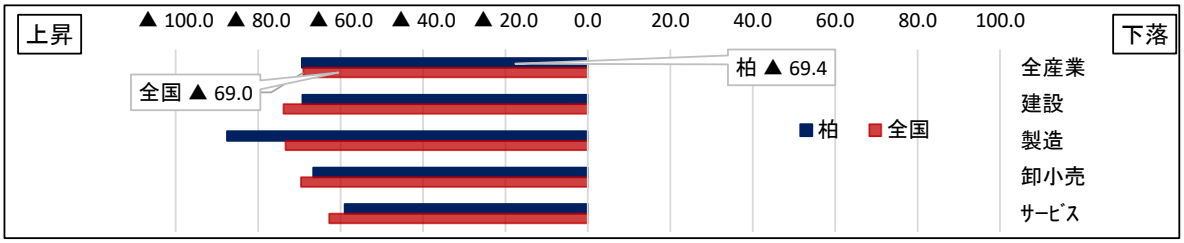
【売上ＤＩ】



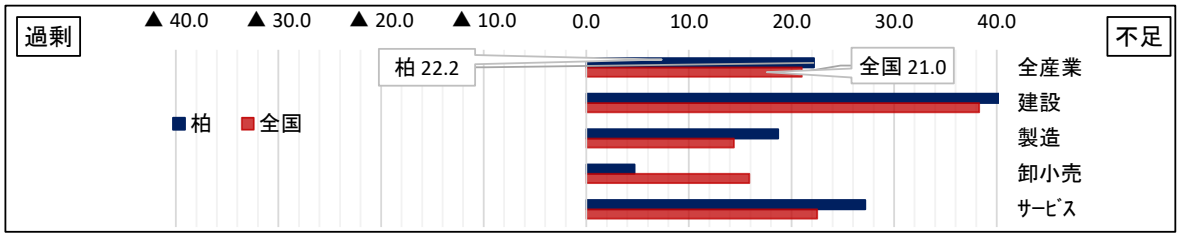
【採算ＤＩ】



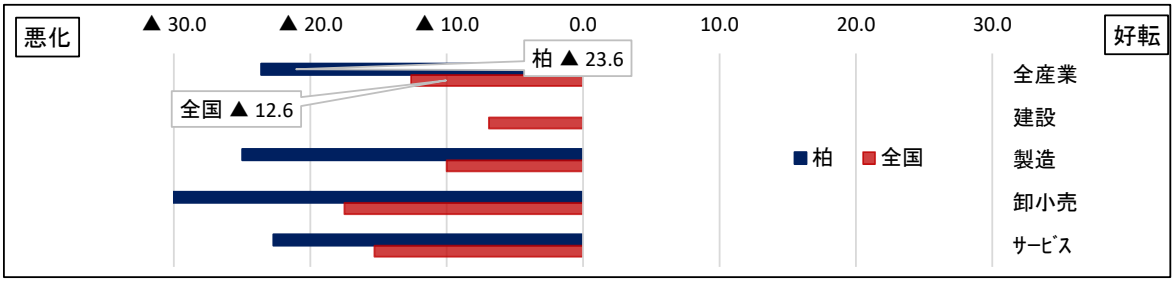
【仕入単価ＤＩ】



【従業員ＤＩ】



【資金繰りＤＩ】



【業種別】業界内トピックス

業種別	概　　況	業種
建設業	大工不足が深刻化。仕事の依頼があっても待ってもらう事が多い。	一般土木建築工事業
	・千葉県内の豪雨災害を含めて、国内での自然災害、国際的な紛争問題により、受注環境の変化が生じはじめている。 ・気候変動に伴う災害の増加などの環境変化にも留意して、経営計画や受注活動を長期的な視点で再考する必要がある。	地質調査・地質コンサルタント
製造業	物価上昇が著しい中、価格転嫁が難しいため、粗利を削りながらの何とか運営している中小企業、とりわけ食品業界を取り巻く環境は厳しさを増している。 8月のお盆休みに、贈答品などの消費支出が堅調に推移したが、後半は買い控えとなり、9月に入ってからもその調子は継続している。 物価上昇に対する消費者の意識は未だ慣れておらず、値上がりに対するマイナス心理が商品の鈍化にも大きく影響しているため、9月に留まらず業界では好調期にならなければならないお盆の購買意欲は伸び悩みが顕著だったと言える。 9月は人事異動などをひかえる10月に向け、消費抑制心理の強まりが顕著。10月以降の様々なイベントに対する購買意欲回帰に期待したいところである。	食料品製造業
	一度落ち着いた中東問題が再燃して材料調達が不安定になってきた	プラスチック加工
	10/1酒税法改正に伴う生産計画への影響多少あり。	酒類製造業
	外的要因による物価高に大きく左右され、価格転嫁等遅れることなく対応していかなければいけない状況。取り扱っている物量は微増程度だが、慢性的な人手不足となっており、現状維持が精一杯といった状況。	金属素形材製品製造業
卸・小売業	昨年は猛暑で晴天も続き季節も狂っていたので、秋物の売込みもできなかった。 本年は、「長い夏」「季節の二季化」「快適な夏」をテーマに取組んできたが、8月13日の線状降水帯発生に伴う水害から、非常に過ごしやすい雨の多い天候が続いている。 順調だった夏物の消化が一気に止まり、秋物の展開を前倒しで拡大している。 上記の天候の変化に加えて、「円安」「金利上昇」「追いつかない賃上」「財源なき減税に伴う財政悪化」があり、先が見えない不透明感が更に景気を押し下げている。 9月は「客数」が大幅に落ち込んで買い控えが進行している。 衣料品とヘルス＆ビューティは堅調に推移して季節の変化に売上も追いついているが 住居余暇関連は、省エネ基準変更によるエアコン特需と水害による自転車の買換え需要が落着いて低迷している。 食料品は客数減の影響を一番色濃く受け、昨年あった米特需もなくなったことから苦戦している。	大型小売店
	取引先の減少による売上の低下があったが、8月から新規開拓・新商品の製造（外注）などで売り上げは徐々に回復しています。	その他の飲食料品小売業
	＊これまでは長雨といっても影響が出るほどではなかったが、今回は明らかに営業に響いた。	その他の各種商品小売業
	9月は雨が多く、客足減少	洋菓子店

【業種別】業界内トピックス

サービス業	8月の豪雨からの生活不安があるのか9月にはいり長雨による客足鈍化が顕著。 また一次生産物の現場からも 生育不良や廃棄量の激増による減収を理由とした今後の仕入れ価格値上げ予想など原油高の物価上昇だけにとどまらず 食を取り巻く環境の先行き不安を覚える。今はこれからの年末に向けた準備期間と捉え明るい年末を期待ししっかり進めたい	専門料理店
	学習塾は人件費が支出のほとんどを占めるため、毎年の賃金上昇がかなり負担になっている。全国一律で上げることを強いるなら、せめて税金などをきちんと納めている零細企業に対しては、直接的な支援を手厚くしてほしい。	学習塾
	今後の借入金利息の上昇が心配だが、物価抑制につながればよいと思う。	不動産賃貸・管理業
	物価、建築費、住宅ローンの上昇等の影響により、買い顧客の問い合わせは減っています。あまりにも急激な価格の上昇に消費者も戸惑いしている印象です。	不動産管理業
	人手不足はあります。求人に対する応募率は低く、例えばUターン就職といった労働力の地元確保が喫緊の課題です。	生命保険業
	当社の事業は、企業からの発注次第です。営業に充てる人材獲得が難しく苦慮しています。最低賃金も上がりますし。	その他の技術サービス業
	1ヶ月間天候が悪く、週末の客数が昨年同月より伸び悩んだ。物価の上昇により各家庭の外食に使う金額が減っていることを感じる。駅前ホテルの撤退など柏市におけるイメージダウンのニュースが増えているように感じる。20代スタッフの育成に苦労している。	バー，キャバレー，ナイトクラブ
	売上は伸びているが、専門職の人手不足状態が課題。AI化、DX化で生産性向上の取り組みを急いでいる。安定した労働力の確保、業務効率が課題	商品・非破壊検査業

調査要領

回答期間　令和８年9月17日　～　令和８年10月2日

調査対象　柏市内１７３事業所及び組合にヒアリング

＜業種別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全　産　業	173	72	41.6%
建　　設	38	13	34.2%
製　　造	44	16	36.4%
卸　・　小売	46	21	45.7%
サ　ー　ビ　ス	45	22	48.9%

調査方法と調査票

下記「質問Ａ」をＤＩ値集計し、「質問Ｂ」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問Ａ

質問事項	回答欄 前年同月と比較した今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高（出荷高）	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算（経常利益ベース）	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問Ｂ 業界内のトピック（記述式）

※ＤＩ値（景況判断指数）について

DI値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ　＝　（増加・好転などの回答割合）　－　（減少・悪化などの回答割合）

※ＤＩ値と景気の概況

DI≧50	50＞DI≧25	25＞DI≧0	0＞DI≧▲25	▲25＞DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振